

## ダイイング・レツスン【声劇用】

言葉を言い間違えないように、「いない。いない。この世にない。」などと繰り返し、練習する。

軽く咳払いし、もう一度、録音に入る。

### 【登場人物】

本田 聰一  
鈴木 美智子  
松田 次郎  
泉 好実

人通りのほとんどないところに位置する廃屋。

本田 ……あなたがこのメッセージを聞いているということは、俺はもう、この世に「いない」だろう。このメッセージを録音し終えた後、俺は、この廃屋で、自分で作った爆弾を爆発させ、死ぬ。俺のスマートフォンから命令を送ると、俺のカバンに入っている爆弾が爆発する仕組みだ。……これ作るの、けつこう大変だった。作つてた途中に、導火線に火をつけて爆発させるタイプにすればいいと思つたけど、もう8割くらい作り終えたあとだつたから、今更それを無駄にするわけにもいかず、がんばつて仕掛けをつくつた。褒めてくれ。……さて、なぜ俺が死にゆのか、

軽く咳払いし、もう一度、録音に入る。

本田、スマートフォンを取り出し、ボイスメモを起動する。

本田 あ、あ……よし、録音するぞ……ええと、……あ

なたがこのメッセージを聞いているということは、俺はもう、この世にいにやい、

咳払いをし、「あーあー」などと軽く発声する。

本田 続きを話そう。なぜ俺が死にゆ、（咳払い）「死ぬ」のか。バカげた話にきこえるかもしれないが、俺には愛する人がいた。まゆゆちやんだ。彼女つていうか、……彼女だ。……彼女だつた。1年前、俺はまゆゆに振られた。「ダメなところがあつたら直す」と言つたらこう言われた。「なんか生理的にやだ」。それから仕事

も休みがちになつた。妙にだるくて、朝起きられなくなつた。結局、仕事も辞めることになつた。そして、

2週間前かな、俺がまゆゆのフェイスブックを見ると、まゆゆが結婚を報告していた。俺より顔の整つた金持ち。これが世の中か。そう思つた。もともと、化学や工学が好きで、趣味で色々な薬品や部品を揃えていた俺は、爆弾をつくることを思いついた。首吊りなんかも考えたが、最後くらい、俺らしく死のう。そう思つた。……まあ、話すことはこのくらいだな。このスマートフォンを発見してくれてありがとう、どこかの誰かさん。それじゃあ……、

本田、最後の言葉を考える。

本田（しばらく考えた結果）……あばよ。

本田、最後の言葉が「あばよ」であったことに関して、なにかしつくりこない様子。

本田……すまない、「あばよ」はイマイチだつたな。……  
グッビヤイ。

最後の言葉を呟んだこととかなりへこむが、

本田 ま、ま、いいか、別にグッビヤイでも……。

本田、再びスマートフォンを操作する。

本田 よし、ここに番号を入れれば爆発する。……押すか。……押す。……ああ、押すよ俺は。

本田、押さない。  
軽く深呼吸する。

本田……あ、家の鍵閉めてきたつけ。

沈黙。

本田 違う、関係ねえよ、どうせ死ぬんだから。そう。  
……パソコン……。警察に履歴とか見られんのかな……。  
男には異常な性癖があり、とか……。

少し沈黙。

本田 死ぬんだよ。そのあとのことなんか、

軽く深呼吸する。

本田 ……さくっとやろう、こういうのは、意識すると

できなくなるから、何気なく、あ、気づいたら押しち

やつた、みたいな感じで、……爆死して、このスマート

フォンのボイスメモ発見してもらつて……、え？

少し沈黙。

本田 これ、爆発でスマートフォンぶつ壊れるな、

少し沈黙。

本田 あそつか、爆発に巻き込まれないくらい遠くで起動すればいいのか。じやあ俺も死なないな。

頭を抱えてしやがみこむ。

本田 ……考える、考える、

外から声がきこえてくる。

鈴木の声 はあー、なかなか雰囲気あるねー。

本田 やべ、誰だ？ くそつ……隠れるか。

本田、いったん隠れて様子を見る。

鈴木が現れる。

鈴木 うーん、やつぱ廃屋つて雰囲気あるなあ。うんうん、いい感じ。よし、自殺するのはここにしようかな。

ええと、水筒水筒……

鈴木、カバンから水筒を取り出して、中身を飲もうとする。

本田 （出てきて）ちょいちょい、あなた。

鈴木 わ、あ、すいません、え？

本田 あのー、困るなあ。ここ、僕の場所なんですよ。

鈴木 あ、えーと、家主さん？

本田 や、家主じやないすね。僕がここに住んでるよう

に見えます？

鈴木 いや、さあ。

本田 あのね、ここは僕が見つけたんですよ。それをあなたノコノコやつてきて、（悪意のあるモノマネ）ウン、イイカンジ。ウン、イイカンジ。ココニシヨウカナ一。

冗談じやないですよ。

鈴木 誰？ 今の誰？

本田 あなたでしよう。（悪意のあるモノマネ）ウン、ウン、イイカンジ。イイカンジダナー。

鈴木 そんな妖怪みたいじやなかつたでしよう。

本田 僕にとつちや妖怪ですよ。妖怪ヒトノバショヨコ  
ドリーですよ。

鈴木 きいたことないですよ。

本田 その水筒は？

鈴木 え、……コーヒーですよ？

本田 コーヒーなわけないでしよう。

鈴木 なんであなたが決めつけるんですか。

本田 なにか入つてるでしよう。

鈴木 ま、砂糖とか入つてますけど。

本田 鈴木 青酸カリとか。

鈴木 なんでコーヒーに青酸カリ入れるんですか。

本田 鈴木 じやあトリカブトだ。

鈴木 砂糖ですって。

本田 鈴木 わかった、フグか。フグだ。乙なもんだな。

鈴木 コーヒーにフグつて合うんですか？

本田 鈴木 知らないよ。没収。

鈴木 やですよ。ただのコーヒーですよ。

本田 鈴木 ただのコーヒーで人間が死ぬと思いませんか？

鈴木 はい？

本田 鈴木 ただのコーヒーを飲んで人間が死ぬんですか？

鈴木 死ないでしうね。

本田 鈴木 なんなんですかあなたは。

鈴木 いや、こつちのセリフなんですけど。

本田 鈴木 とにかくどつか行つてください。ここで死ぬのは

僕なんです。

鈴木 ……はい？

本田 鈴木 ？

鈴木 死ぬんですか？

本田 あなたもでしょ？

鈴木 私が……？

本田 だつてさつき、「自殺するのはここにしようかな」

鈴木 つて。

本田 あ、あああ。違います違います。

鈴木 はい？

本田 鈴木 家。今度の小説で、登場人物が自殺する場所はどんな

感覚のところがいいかなって思つて、で、取材がてら、

散歩してたらここ見つけて、あ、ここいいなあって。

本田 ……あ、ああなるほど、へー。

鈴木 えつと、自殺なさる……？

本田 ……そんなこと言いましたつけ？

鈴木 はい。

本田 ……僕も小説を書いてて。（改めて見まわして）あー、

鈴木 この辺で主人公が死ぬといいだらうなあ。

鈴木 いいですよそういうの。え、死ぬつもりだつたの？

鈴木 なんでなんで？ なんで死ぬの？

本田 なんでちょっと嬉しそうなんすか。

鈴木 教えてくださいよ、ネタになるかもしけないじや

ん。早く早く、

人が死ぬのネタにするなよ。

本田 鈴木 ほら、ちようだい。

ちようだいってなんだちようだいって。もつたいぶつてるとハードル上がりりますよ。いん

ですか？ すごい期待しますよ？

本田 ……わかりましたよ。

鈴木 ほんと？

でも、別につまんない話ですよ。

大丈夫、面白くするから。

鈴木 うん、で、なに？ ちようだい。早く。

本田 鈴木 勝手に面白くすんなよ、

本田 鈴木 うん、で、なに？ ちようだい。早く。

鈴木 女ですよ。

本田 鈴木 うわ、出た、女。修羅場でしょ、修羅場。

本田 鈴木 そんなんじやなくて、……ただ女に振られたって

だけですよ。

沈黙。

本田 鈴木 ほら、つまらない話でしょ。

鈴木 つまんない。

本田 鈴木 だつて……ええ？

本田 鈴木 なんだよ。

ちよつと、……予想以上につまんなかった。

真剣なんだこつちは。

これは……ちよつと小説のネタにはならない。だつてつまんないもん。

鈴木 じゃあ勝手に面白くすりやいいでしょ。

本田 鈴木 ならない、これは面白くならない。

本田 鈴木 お前に俺の苦しみはわかんねえよ。

鈴木 言う人いるんだね。

本田 鈴木 どうか行けよ。

本田 鈴木 え、ほんとに？ ほんとにそんな理由で死ぬの？

本田 鈴木 文句あんのかよ。

本田 鈴木 だつて、……女に振られたたけじや人は死なない。

鈴木 死ぬんだよ。

本田 鈴木 死ぬない。

本田 鈴木 じやあ俺はなんなんだよ。

本田 鈴木 だから死なないって。絶対思いとどまる。

本田 鈴木 本気だぞ俺は。このスマートフォンに番号を入れたら、このカバンに入つてる爆弾が爆発するんだよ。

鈴木 あー、どうせ押せない。

本田 鈴木 押すぞ、本気で押すからな。

本田 鈴木 あーはいはい。はい、しまつてしまつてー。

や本当に、これマジで押すから。

本田 鈴木 あーはいはい、しまつてしまつてー、はい、ポケ

ツトにしまつたー。

本田 そういうなあなあを感じで止めんなよ。

鈴木 うん、わかった、あんた頑張つてる。でも今日は

違うね。うん、また日を改めて。

本田 そのテキトーな感じやめろよ。囁み合つてないんだよ俺とお前のテンションが。

鈴木 飲みに行く？ タクシー呼ぶ？

本田 行かない。マジでほんと、どつか行つて、お願ひだから。

鈴木 うんわかった、いつたんね、いつたん。またちょつとしたら戻つてくるから。いつたんね。じや、お疲れ。

本田 お疲れじやないよ。

鈴木 またね。

本田 おう、またな。……「またな」じやねえよ、死ぬんだよ。もう死ぬんだよ俺は。

鈴木は去つていった。

本田 なんだよくそ、バカにしやがつて。……ああくそ、全然死ぬテンションじやなくなつたよ。……ダメだダメだ、何言つてんだ、死ぬんだよ俺は。ここまで準備してきたんだぞ、今更全部ムダにする氣か俺は。押すぞ、押す……押すんだ俺は……。

声がきこえてくる。

松田の声 こつちだ、ぐずぐずすんな。

本田 また誰か来た、くそつ、隠れるか。

本田、いつたん隠れて様子を見る。

泉を連れた松田が現れる。

泉は目隠しをされ、手を縛られている。

松田は拳銃を持つてゐる。

松田 よし、おとなしくしろよ。目隠ししてて見えねえと思うけど、俺は拳銃持つてるからな。騒いだら撃ち殺すからな。

松田、電話をかける。

松田 ……おう、もしもし、トヨダ・ソリューションズのトヨダ社長だな。いやなに名乗るほどの者じやないんですけどね。お宅のお嬢さん、家に帰つてきてないでしよう。いないはずですよ、ここにいるんですから。ん？ 確認する必要なんかありませんよ、だつてここにいる、（いつたん保留にされたらしく、舌打ち）……（少し

して「グリーン・スリーブス」の鼻歌を歌う) だいたいこれ

なんだよな保留の音つて。……(相手が戻ってきたらしい)

おう、お嬢さんがいねえのわかつただろ。身代金なん

だがね、現金でじゅ、え、いた? や、いないよ。

だつて、ここにいるんだもん。いや、バカにしてない

です、はい、いや本当ですつて、わかりました、声き

かせます、はい、え? ああ、まあ、似た声の人かも

しれないですかね、はい、じやあ、はい、写メ送り

ます。ほんとに、ちょっと待つてください、はい、え

えと、目隠しとつて……

松田、泉の目隠しをとる。と、松田の知らない人。

松田 え? ……あれ? 誰キミ?

泉 ……。

松田 あ、すみませんお待たせいたしました。はい、先

ほどの誘拐の件だつたんですけど、なんかあの、はい

間違えました。はい、あ、通報とかちょっと、はい、

あれなんで、はい、あの間違いなんで、はいすみませ

ん、はい、はい、二度とこのようなことが、ええはい、

善処いたしますんで、はい、はい、失礼します、大変

申し訳、はい、はい、ええはい、すみません、はい、

はい、はーい。(電話を切る)

なんとなく見つめあう松田と泉。

松田 ……あの、トヨダ・ソリューションズのお嬢さん、

泉 じやないです。

松田 あー。

沈黙。

松田 え、よく似てるとか言われません?

泉 知らないです。

松田 ……親戚?

泉 いえ。

松田 ……誰だよ。

泉 泉です。

松田 誰だよ。

泉 泉好実です。

松田 きいてねえよ。

泉 ……えつと、ちょっと確認してもいいですか。

松田 ダメです。

泉 ……あの、もしかして、間違えて、

松田 しやべるな。

泉 間違えて、

松田 やめる。

本田、クシャミをしてしまい、松田に気づかれる。

松田 誰だ、

本田 やば、

松田 何だお前、来い。

本田、松田に引きずりだされて、泉の横に座らせられる。

松田 おい、見てたな。

本田 見てないです。

松田 いや見てたな。

本田 見てないです。

松田 この拳銃見える？

本田 見てました、はい、すいません。

松田 正直に答える。

本田 はい。

松田 どう思つた？

本田 はい？

松田 今の一連の流れ、どう思つたんだよ。

本田 「ないな」って思いました。

おらあ！（本田をけり倒す）

いてえ！ 正直につて言うから……。

松田 なあ、仕方ないよな？

本田 はい？

泉は考える。

本田はどうしていいかわからず、松田や泉になにか訴えかけた  
さそうにそうにしているが、二人ともきいてくれなさそうである。

松田 殺されても仕方ないよな、お前。

本田 待ってくださいよ……。

松田 大丈夫、こいつ（泉）も殺すから。

本田 その人関係ないじやないです。

松田 だつてもう、知つちゃつたからな、一連のこれを。

本田 あなたが悪いんじやないです。

松田 （泉に）なあ、どう思つた？ 一連のこれ。

泉 これはないな。

松田 うん、殺す。

本田 待ってくださいよ。

松田 で、俺も死ぬ。心中ですから、これは。

本田 いやー生きてればいいことあると思いませんけどね

え……。  
松田 （泉に）おい、なにか最後に言い残しときたいこと  
あるか？

泉 あつと、ちょっとすぐには……。

松田 うん、じやあ30秒やるから考えて。（本田に）お

前も、最後の言葉考えとけ。

本田 そなあ……。

松田 はい、はじめ。

泉 あの、  
松田 決まつたか。  
泉 あなたは、なんて言うんですか。  
松田 ん?  
泉 決まつてるんですか。最後の言葉。  
松田 ああ、そうだな。「俺の人生、ひとつだけ間違いがあつたとすれば、それは、この世界に生まれてきたことだな。」かな。  
泉 (吹き出す)  
松田 バカにしたか今。  
泉 参考にします。  
松田 バカにしたよな今。  
本田 刺激しないでくださいよ。  
松田 お前どう思つた。  
本田 はい?  
松田 今の言葉、どう思つた、なあ?  
本田 や、はい、素敵だなあつて。  
松田 いやあの正直に。正直に。  
本田 「痛いなー」って思いました。  
松田 おらあ! (本田をけり倒す)  
本田 いてえ! 正直につて言うから……。  
松田 (泉に) おい、バカにしてるみたいだけど、お前はなんて言うんだよ。

泉 その時に言いますんで。でも絶対あたしの方がインパクトあるんで。  
松田 求めてねんだよインパクトは。あーもう30秒経つたよ。おわり。おしまい。ほら言え。  
泉 いやどうぞそちらから。  
松田 僕さつき言つたじやん。  
泉 あればだつて、リハーサルですか。  
松田 リハーサルってなんだよ、リハーサルとかねえんだよ別に。  
泉 はい、どうぞどうぞ。  
松田 わかつたよ。……これが世界か。ま、悪くはなかつたかもしれないな。  
本田 ……変えました?  
松田 文句あんのかよ。  
本田 いやー、だつてさつきの言うと思つてたから……。  
松田 やめたんだよ。なんか評判よくなかったから。  
本田 ……。  
松田 (泉に) ほら、じゃあ次はお前だよ。お前俺より本当にインパクトあるんだな。今ハードルすぎえからな。マジで。はいどうぞ、3、2、1、はい。  
泉 ……お母さん、こんな娘でごめんなさい。私、リュウヤと結婚するつて言つてたのに、結婚式で幸せな姿を見せるからつて言つてたのに、実現できなくてごめんなさい。ケンカして別れることになつたつて言つた

けど、あれは本当は嘘です。気づいたら私のためていたお金を全部とられていなくなっていました。覚える？お母さん。一生治療が必要な病気になかつてしまつたといって月々15万送つてもらつていたけど、あのとき見せた診断書は私が偽造したものです。リュウヤに貢いでいました。ときどきお母さんに生活費が足りないといってお金を送つてもらつていましたが、お店での成績が悪い時にリュウヤに貢いでいました。リュウヤをナンバーワンにしたかったからです。車で事故つて示談のために100万必要だつて言つたこともあつたよね。あれもリュウヤに……

松田 あーーーー。おわり。

泉 あと6つくらいあるんですけど。

松田 もういい。お母さんかわいそう。

泉 インパクトありました？

松田 うん、あつた。お腹いっぱい。

泉 ジや、もういります。

松田 (本田に) うん、じやあお前。

本田 はい？

松田 最後の言葉。

本田 あ、はい。あの……、その、リュウヤというのは、本当に悪い男ですね。もう最低です。ですがその、わたくしは、お金もありませんし、仕事もしております。しかし、心、心だけは善人の心を持つております。

ですからその、わたしなんて、どうでしよう？

松田 ……え？ なに、いま告白したの？

本田 告つてませんよ、質問をしたんじやないですか。私はどうですかつて。

松田 「告る」とか言うなよいい大人が。

泉 いやー、無理つす。

松田 無理ですか……。

松田 ちなみに、どこが無理なんでしょう？

泉 顔。

本田 顔か……。

松田 なに結構ショック受けてんだよ。

本田 えほんと無理つすか？

泉 無理つす。

本田 なんなら、整形とか考えますから。

泉 あーもう早く殺してくださいこの人。

本田 なんですかその態度は。歩み寄ろうとしてるんですけどよこつちは。

松田 なんでお前が怒んだよ。

本田 結局顔か？ え？ イケメンがいいのか？ え？

おい。なんとか言つたらどうなんだよ！ (泉に襲いかかる)

松田 おい、何襲いかかろうとしてんだ！ やめろ！ やめろ！ やめろ！ おらあ！ (本田をけり倒す)

本田 いてえ！  
松田 この人に近付くなお前は！  
本だ ……あんたはそいつの味方か！  
松田 お前の味方じやねえことだけは確かだよ。  
泉 （ささやくように小声で）死ね。  
本田 （また襲いかかろうとする）お前今「死ね」って言つたか！え？ 小声で死ねって言つたか！  
松田 やめろお！（本田をけり倒す）  
本田 いてえ！  
松田 キミ、大丈夫？ 起きれる？ ああごめんごめん、  
腕縛つてたね。ほどいてあげるよ。うん、大丈夫、大  
丈夫。はい、はーい。（縄をほどいてあげる）  
本田 なんでそんなヤツに優しくしてんのだ。  
松田 優しくするのに理由なんていらねえよ。  
本田 ……イケメンかお前は。  
松田 （泉に）あー大丈夫ー？ 痛かつたねー？  
本田 見せつけるな。俺に、見せつけるなー……。（泣き  
出す）  
松田 あーもう、いい？ 最後の言葉。はい、もう終わ  
り。もう、死のう。もう、サクッと。もう撃つていい？  
本田 待てよ……。  
松田 なに。  
本田 あんた警察かなんかか？  
松田 ……いや。

本田 撃つたことあるのか銃を？  
松田 ……初めてだな。  
本田 初心者が、一回で急所を当てられるとと思うか？  
松田 さあ。  
本田 どうせちょっと外すよ。ああ痛い、痛いけど致命  
傷にはならない、っていう、最悪のパターン。  
松田 ジやあこうやつて頭に密着させてコメカミに撃て  
ばいいだろ？（銃口を本田のコメカミあたりにあてる）  
本田 はいダメ。コメカミちょっとはずして。死なな  
い。  
松田 なんだよ、じやあどうすんだよ。  
本田 （バッグを持ってきて）ここに、爆弾があります。  
松田 ……。  
本田 僕のスマートフォンから番号を打ち込むと、この  
カバンに入ってる爆弾がボン、ですよ。半径10メー  
トルくらいはもう、消し飛ぶんで。  
本田 どうですか？  
松田 ……。  
本田 ……どうしたんです。  
松田 困つてるんだよ。リアクションに。  
本田 「よくやつた」、じやないですか。普通に。  
松田 ……えっと、きいていい？  
本田 あ、ちゃんと死ねますよ、はい。

松田 いや、……なぜ、爆弾を……？

本田 あ、これですか、死のうと思つて。

松田 ……。

本田 でも、一人だと怖いんですけど、こうやつてみんなと一緒に死ねるって思うと、なんだか、嬉しいですね。

ええと3, 6,

松田 待つて。え、……もう数字入れてるの。

本田 はい、もう、すぐですか。

松田 一回待とう。一回。ね？

本田 ほんとに死ねますよ。

松田 ちよつと、……心の準備が。

本田 さつき言つたじやないですか、最後の言葉。

松田 そうだけど、最後の言葉のあとにけつこう喋つちやつたし。

泉 ちよつといいでですか？

松田 はい、はい、

泉 私は、その拳銃でお願いします。

松田 え？

泉 この人と一緒に死ぬの、嫌です。

本田 てめえ！（泉に襲いかかろうとする）

松田 おらあ！（蹴り飛ばす）

本田 いてえ！

松田 あの、でも、俺、拳銃撃つの初めてだから。

泉 死ぬまで撃つてくれればいいですから。

松田 いやあ……。

本田 わかりました。じゃあ私がこいつを撃ちます。

松田 なんでかなあ。

本田 バイオハザードとか得意だったんで、大丈夫です。

松田 貸してください。

泉 死ね。

本田 はつきり言つたな。死ぬのはお前の方なんだよ。

松田 その拳銃貸せ。こいつは殺さないとダメだ。

松田 おらあ！（蹴り飛ばす）

本田 いてえ！

松田、本田に拳銃を向ける。

本田 おい、なぜ俺に銃口を向けるんだ。そいつ（泉）

だろ殺すのは。

松田 もう、人間として許せない。

本田 犯罪者が人間気取りか。

松田 俺もびっくりした。俺つて、まだ正義感とかあるんだなって。

本田 人間のクズの分際で。

松田 それ以上近づいたら本当に撃つ。

本田 本望だよ。もともと死ぬつもりだつたんだから。

松田 ほら撃てよ。

松田 そう言わると撃ちたくなくなるんだよなあ。

本田 人間のクズだつたらクズらしく、挑発されたらすぐカツとなつて、暴力ふるつて、その責任を社会に押し付ける。人のこと人だと思わずに殺して、社会が悪いとか言え。

松田 お前の方がだいぶクズだよ。

本田 やんのかお前。いいか、俺がこうなつたのは俺のせいじやない。社会が悪いんだ。

松田 自分で言つちやつてんじやん。すげえクズじやん

お前。（泉に）ねえ？

泉 どつちもクズだよ。

松田 だな。俺もクズだな。もういいよ。爆発させて。

本田 嫌だ。

松田 ……なんですか？

本田 お前の指図は受けない。

松田 なにそれ……、ガキか。

本田 社会が悪い。

松田 また出た。

本田 懇願しろ。土下座して。爆死させてくださいつて。

松田 ……わかった、やつぱり撃ち殺す。もう、今ならすつと撃ち殺せる氣がする。じや、あの世で会おう、さよなら。

鈴木が現れる。

鈴木 はい、はい、ストップ、はい。

松田 ……誰だよ。

鈴木 違う。もつたいない。

松田 誰なんだよ。

鈴木 緊張感が足りない。グダグダ。

松田 あの俺たちもう死ぬんで。

鈴木 だからこそでしょ。あんたたち死ぬつてことがわかつてない。死ぬつてもつとこう、……ドラマチックでしょ？ そういうグダグダな感じで死ぬのは、違う。

松田 誰なんだよ。

松田 さつきもいたんですけどこの人。

鈴木 このコ（泉）だってさ、せっかく最後の言葉言い終わつてたのに。ダラダラ生き残つてるしさ。

松田 なんか作家らしいんですよ、この人。

鈴木 そう、だから、もうちょっと真剣にやつてほしいんですよ。そしたら書きますから。

松田 別に書いてもらわなくともいいんですけど。

本田 あんた本当に作家なんですか。見たことないです。

松田 まあ、そんなにメジャージやないですから……。

本田 え、なんていうんですか、名前。

鈴木 鈴木ですけど。

本田 いや、鈴木じやわかんないです。

鈴木 鈴木美智子です。

本田 鈴木美智子？ あ！ え、鈴木美智子って、あの、  
「コンビニ列車」の鈴木美智子さんですか。

鈴木 え、ご存じなんですか？

本田 読みました。すごい良かったです。

鈴木 え、ほんとですか？

泉 あ、あの、私も読みました。

鈴木 え、ほんと？

泉 「コンビニ列車」もそうですし、あと「火花のスク  
ラップ」も。

鈴木 えーほんと？ 嬉しい。あなたは？

松田 ……いや、あの、すいません。

泉 本とか読まなさそうですもんね。

本田 だから誘拐とかしちゃうんだよ。

松田 ……すいません。

本田 あの、握手してもらつても。

鈴木 ええ、もちろん。（握手する）

本田 うわーありがとうございます。

泉 あの、あたしも。

鈴木 ええはい。（握手する）

泉 あー嬉しい、もう死んでもいいです。

本田 もう死ぬんだけどね。

三人 あははは。

松田 なんか仲良くなつてない？

泉 鈴木美智子が好きな人で悪い人はいないです。

本田 あの「コンビニ列車」でさ、山岡がわざと発注の  
端末落として壊すとこあるじゃないですか、

泉 あれわかるー。

本田 僕もわかるー。

鈴木 あそこ私も思い入れあるんですよー。

本田 あそここのくだり本当よかつたです。

泉 すごいあたしのこと書いてるつて思いました。

鈴木 ほんと？ よかつた嬉しい。

本田 あの、さつきの、なんか死ぬとか死なないとかや  
つてたくだり？ 僕もなんかちょっと違うなつて思つ  
てたんですね。

泉 あたしも思った。死ぬつてこういう感じじやないよ  
ね。

鈴木 あんまり文学的じやなかつたよね。

泉 （松田に）だからやつぱりさ、あたしが最後の言葉を  
言い終わつた時点で、あたしのこと殺さないといけな  
かつたと思う。

松田 え、俺？

泉 だつて、あたし死ぬと思つて、懺悔する気持ちで赤  
裸々に語つてたのに、あそこで死ななかつたら、なん  
か、文学的じやない。

松田 文学目指してないから。

鈴木 で、なんかこのコの縄外しちゃつてるじやない。

「これは、ないね。

泉 いや、ない。ほんとない。（松田に）あたし逃げちゃうよ？ いいの、逃げちゃうよ？

松田 よくないけど……。

本田 え、ずっと見てたんですか。

鈴木 けつこう最初から見てた。

本田 やっぱ観察つて大事ですもんねー作家つて。

泉 どういう感じだといいでですかね？ さつきのくだり。

鈴木 全体的にちょっと喋りすぎつて感じかな。

本田 嘶り過ぎかあ。

鈴木 やっぱ文学つてもうちょっと静かなんだよね。たまにセリフばっかりの手抜き小説みたいなのあるけど、あれはやっぱダメだね。演劇の台本じやないんだからって感じ。え、ちょっとやってみて。あの、キミ（本田）がそこにいてさ、

本田 本田です。

鈴木 うん、本田くんがさ、そこで物音たてちやつて、

その誘拐犯に気づかれるところ。

本田 あ、そこから見てたんですか。

鈴木 うん、見てた。

本田 やっぱ作家は違うなあ。ここですね。（位置につく）

泉 （そのときにいた場所に座つて）私ここでいいですか？

鈴木 うん、そうだね。

松田 ……。

本田 ちょっと、はい、誘拐犯……。（松田を位置につける）

松田 （不満げに）……はい。

鈴木 うん、いいね。じや、ちょっとくしゃみしてみて。

本田 はい。（くしゃみする）

松田 ……。

鈴木 はいくしゃみ聞こえたよ、どうすんの？

本田 あ、すいません、……誰だ、

鈴木 やば、

本田 （見つけて）来い。

松田 本田、松田に引きずりだされて、泉の横に座らせられる。

松田 見てたな。

本田 見てないです。

松田 いや見てたな。

本田 見てないです。

松田 この拳銃見える？

本田 見てました、はい、すいません。

松田 うん、ありがとう。ちょっと文学じやないなあ。

鈴木 あー、僕もちょっとしつくりきてないですわ。

本田 ちょっと違うのやつてみて。

泉 （少しだして自分に言つてることに気づく）あ、俺つすか？

松田 ほーっとすんなよ。

松田 ……はい。

鈴木 ちよつと別の感じで、もう一回。はいどうぞ、く  
しやみ。

本田 (くしやみする)

松田 おいおいなんだおい、くしやみが聞こえたな。つ  
てことは？ 誰かがいるつてことだな。おい出てきた  
らどうなんだ、俺を誰だと、

鈴木 違う、

本田 違う、

泉 違う、

松田 違うのかよ。

本田 文学じやない、

泉 センスない、

鈴木 あのね、きいてた？ 私最初に「喋り過ぎ」つて  
言つたじやん。ちよつと、今のくだり一切喋んないで  
やつてみてもらえる？

鈴木 で、コメカミに銃突きつけて最後に一言「なあ、女は  
好きか？」つて言つてみて。じやあもう一回物音。

本田 はい。(くしやみ)

松田、しきやべらずに本田を捕まえ、泉の横に倒す。  
本田のコメカミに銃口をつきつける。

松田 ……なあ、女は好きか？  
鈴木 ……(嘆息) いい。文学的。

本田 いいですねこれ。

泉 さすがです。恐れ入ります。

鈴木 どうだつた？

松田 ……まあ、悪くはなかつたかな。

本田 なんか、すごい希望が見えてきました。

泉 最後まで緊張感保つて、文学的な最期を迎えましょ  
う。

鈴木 けつこう長丁場だよ、小説なんて一日や一日じや  
書けないからね。

本田 や、もう何日かかつても大丈夫なんで。

鈴木 ちよつと休憩してご飯とかにしようよ。コンビニ  
とかあつたつけ？

本田 いやー、歩いたら30分くらいかかるんじやない  
ですかね。

泉 この人(松田)、車だよ。

松田 ああ、まあ。

鈴木 あ、じやあ私ここに残つてアイディア練つとくか  
ら、お弁当とかお菓子とか。(財布からお金を出そうとする)

本田 あー僕出しますから。

鈴木 本当？

本田 もうはい、大丈夫です。

泉 ジやあ買つてきます。好きなものとかありますか？

鈴木 んー、牛カルビかな。あと、お菓子多めで。あ、  
お酒も少し。

泉 わかりました。

鈴木を残して三人は去り始める。

松田 さつきのさ、「なあ、女は好きか?」ってどういう意味?

泉 さらわれた女と無理やりなにかやらせるのかなあとか、一緒に殺すのかなあとか、読者の想像がひろがつて緊張感が保たれるでしょ。

松田 あ、なるほど。作家つてすげえんだなあ。

2

それから少し時間が経った。  
食べ物や酒が床に広がっている。

みんな少し酔っぱらっている。

本田 ほんとなんなんだろうって思いますよ、大学出て

資格までとつたのに、一級建築士ですよ、一級建築士。

二級じやなくて一級ですよ。

泉 そんなすごい人だつたんだー。

本田 すごいんですよ。

松田 あんた偉いよ！

本田 松田さーん。わかつてくれますか僕の気持ちを。

松田 わかる、俺も振られたことある。女つてほんと勝手だよな。

鈴木 でも、だいたい原因は男だからね。

本田 そつすよほんとに。

泉 ほんと何もしてないんすよ僕。

松田 出た、「男らしくない」、むかつくわ。

本田 むかつきますよねえ！

泉 だつて、男は男らしくいてもらわないとさ。

松田 「お前女子力ねえなあ」って言われたらむつかない？

泉 むかつく、つてかそれ会社で言われた。

本田 それと同じだよ。

泉 それは違うんだつて、だつて毎日深夜まで働かされて、女子らしさとかに使う気力が残つてないから。

鈴木 泉ちやんなんの仕事してんの？

泉 まあ、小さい広告代理店ですよ。

鈴木 すごいじやん、ザ・リア充職じやん。

泉 全然もう、掃き溜めですよウチは。

本田 なんか広告とか作つてんの？ 僕見たことがあるかな。

泉 あーそういうのはもつと大きなところが持つてちやな。駅にある広告とか？

うから。もつとちつちやい企業の、……あのさ、太る  
バイトつて知つてる？

松田 なにそれ？

泉 一ヶ月で10キロ太つたら20万。

本田 なにそれ、なんかの実験。

松田 わかつた、治験。

泉 ブー。ダイエット食品のモデルのバイト。

鈴木 ダイエット食品のバイトだつたら痩せなきやダメ  
じやん。

本田 太つたら宣伝になんないじやん。

松田 (気づいて) うわつ。あ、わかつた。わーそうか、

マジか。

鈴木 あ、そうか。

本田 え、なになにどういうこと？

松田 だから、逆に使うんだよ、写真を。

泉 そう。

本田 え、わ、わーー。

泉 ビフォーに太つた写真載せて、アフターに瘦せてる  
時の写真載せるのね。

鈴木 深い。闇が深い。

泉 そんな仕事してるとさ、あたしがお金をもらつてい  
るこの仕事はいつたいなんだろ、精神と体力削つて  
つくつている私のこれは、いつたいなんなんだろうつ  
てさ。それで今日、急に目隠しさせられて、車に乗せ

られて、ああそりか、もう会社いかなくていいんだ、  
もうこんなことしなくていいんだつて。

本田 ……辞めようつて思わなかつたの？

泉 ああ、もちろん何回も思つたけど、でもあたしがい  
なくなつたらみんな困るだろうし、あたしがもつと効  
率的に仕事すればいいだけかもしけないし、別に居心  
地悪い職場つてわけでもないし、残業代だつて出るし、  
まあいつかつて、辞めて親に説明するのも面倒くさい  
し、たまにリュウヤに会つて思いつきり愚痴きいても  
らえればそれで幸せかなつて、

鈴木 それ、けつこう末期だよ。

泉 いやいや、だつて別に苦しくて死にたいとかじやな  
いですから、

鈴木 それ、感覚マヒしてるだけだから、

泉 いやいやほんとに、

鈴木 さつき、この人(松田)に殺される感じになつた  
じやない、そのとき、死にたくないつて、思つた？

泉 あー、まあ、死にたいとか死にたくないとかつてい  
うより、もう会社いかなくていいなあとか、あたしが  
やつてた仕事、誰がやるのかなあとかの方が強かつた  
ですね。

鈴木 末期。

泉 え、

本田 末期だ。

泉 えー？

松田 うん、おれちょっと怖いなって思つた。

泉 いやいや、だつて末期つて、もっと追い詰められてる感じにならないですか。

松田 いや、追い詰められてるよ。

泉 え、追い詰められてるんですかあたし。

鈴木 自覚ないだけだよ。

泉 あーそつか、なるほど、死にたくないって思います

もんね普通。

本田 あ、気づいた。

鈴木 それ、訴えたら勝てるから。次の仕事探した方が

いいよ。

泉 んー、でも訴えるのも仕事探すのも面倒くさいです

ねー。(ちょっと笑つてる)

松田 え、なんで笑つてんの、怖い。

泉 え、なんで？

鈴木 いい？ あなたたちも一步間違えたらこいつ感じになるんだからね。

本田 気付けます。

泉 松田はなにやつてるの。

松田 え？ あー俺は、今はなんもしてないんだけど。

前までスーシアクターやつてた。

本田 あ、あれだ、服屋とかに貼つてある写真の、

松田 ん、なにと勘違いしてるのかわからぬけどたぶ

んそれじやないよ。

鈴木 ヒーローショーとかつてこと？

松田 そうつすそうつす。

泉 へー。

本田 怪人とかボコボコにするんだ。

松田 いや、俺はボコボコにされる方で。でもあれ、ヒ

ー口ーより怪人の方がうまい人がやるからね。

泉 そうなんだー。

鈴木 やられる方が難しいってことなんだ。

松田 そうそう、派手にキレイにやられなきやいけないから。

本田 あーなるほど。

松田 でもなんか、あれ、俺なんで悪いことしてないの

に毎回やられてるんだろうつて、妙に引っかかるよう

になつちやつて、急にモチベーション下がつちやつて、

泉 それでやんなつちやつて辞めたんだ、

松田 いや。よく一緒にやつてたヒーロー役のやつが妙

に調子こいたやつでさ、よく台本にないことやつて怪

人に必要なない攻撃とかしてたんだよ。俺も危ないか

らやめろつて何度も注意してたんだけど、その日の舞

台も、仲間の怪人に、プランにない飛び蹴りをしてさ、

それで、そのアクターが明らかに様子がおかしいわけ、

怪人のスーツ着て表情とかはよくわからなかつたけど、あれはきつい怪我したなつて俺にはわかつた。そのと

き俺は気づいたんだよ。悪はこいつじゃないかって。そのあと倒されるべきなのはこいつじゃないかって。そのあとことはよく覚えてないんだけど、どうやら、そのあとシーンで、俺、そのヒーローのアクターを、舞台の下に投げ飛ばしたらしいんだよ、一本背負いで。

で、命に問題はなかつたけど、腰を思いつきりやつちやつたらしくて。それでもう、俺もいられる雰囲気じやなくなつてさ。保険入つてたから、賠償金はなんとかなつたけど、なんだか不思議に思つたなあ。悪つてなんなんだろうって。

泉 その調子こいてるやつが悪いんですよ。

本田 鈴木さんは、やっぱり小説だけで生活してるんですけど?

鈴木 小説書くだけで生活できる人なんてほとんどい

ないよ。

本田 じやあなにかほかにお仕事を。

鈴木 コンビニ。

本田 ……あ、へー。

鈴木 でも、いろんな人が来るから、けつこう勉強になるよ。

泉 『コンビニ列車』もコンビニの話ですもんね。

鈴木 そう、週5で8時間。時給1100円。月収いく

らだと思う。

泉 ……15万くらいですか?

鈴木 一か月で22日働いたとして、193,600円。所得税と年金、健康保険引かれて手取り16万くらい。やつてらんないね。もちろん原稿書いてお金もらうようなこともあるけど。

松田 しんどいですよね。

鈴木 まあね。……よし、今の話聞いてて、こう、みんなが死ぬ構想がなんとなくは固まってきたな。

泉 えー、きかせてください。

鈴木 いやでもまだ最後がねえ。こう、人間にとつて幸せな死に方つてなんだろうなあつて。

本田 え、僕たち幸せに死なせてもらえるんですか。

鈴木 まあやっぱ幸せな方がいいんじやないかなーつて、こうやつて協力してもらえるわけだし。

泉 いや協力してもらつてるのはあたしたちの方ですよ。

鈴木 本田はさ、なんで爆弾で死のうと思ったわけ。

本田 ええ? あー、まあ、なんか自分らしい死に方があ

いいなと思って。僕、爆弾とか作んの好きなんで。

泉 自分らしい死に方かあ。その発想はいいなー。

鈴木 泉ちゃんはどう死にたい?

泉 あー、でもやっぱりリュウヤに愛してるよつて言わ

鈴木 ほか。

泉 厳しいなあ。でも、笑いながら死ねたら幸せですかね。あははは、あははは、あははははー! (松

田に）あ、撃つていいですよ今。あははははーあははははー！

松田 え、怖い、やだ、この人思つた以上にやばい。

鈴木 泉ちゃんにとつて「自分らしい死に方」ってなに？

泉 うーん、本田さんみたいに特技とかあるわけじやないしなー、

鈴木 好きなものは？

泉 リュウヤ。

鈴木 ほか。

泉 うーん、これといつて趣味もないんですよー。だから、自分らしいといつていわれても、あたし、なんなんでしょうね。あれ、（涙が出ているのに気づいて）あ、すみません。なんか涙が……あー、あれ、とまんない、ごめんなさい。

沈黙。

松田 ……死ぬ必要、あるんですかね。

鈴木 （松田を見る）

松田 なんかこのまま死ぬのはよくないと思うんですよ。その前に、なにかやっておかなきやいけないんじやないかって。

本田 道徳の教科書かお前は。

松田 いや、そういうんじやなくて。

本田 ダメだよ今更。

松田 そうじやなくて、このまま虐げられたまま終わつていいのかなつて。泉ちゃんの涙とか、俺の怒りとか、本田の悔しさとか、このやり場のないエネルギーを抱えこんだまま死ぬのは違うんじやないかって。だつて、死ぬべきなのは俺たちなのかな？

鈴木 （松田を見ている）

松田 掃除機のパックあるじやん。吸い込んだゴミがたまつてさ、いっぱいになつたら捨てられるのね。俺たちつてさ、今、掃除機のパックになろうとしてるんじやない？

本田 ちよつとその例え。ピンとこない……。

松田 だから死ぬべきなのは俺たちじやなくてさ、

泉 あー。

少し沈黙。

泉 やだ、あたしは掃除機のパックなんかじやない。違う。違う。

松田 な、そうだろ？

鈴木 あー！

本田 え？

鈴木 私だつて掃除機のパックなんかじやない！ やだあ、もう働きたくない！

本田 鈴木さん？ あれ？ 急に酔っぱらったかな？

鈴木 酔っぱらつてない、酔っぱらつてないもん！

本田 いや、酔っぱらつてますつて。

松田 でも俺たちはさあ、今、その掃除機のパックにな

ろうとしてるんだよ。

泉 あー、破裂してやりたい、破裂してゴミまき散らし

てやりたい、

松田 ……そ�だよ、まき散らすんだよ、抱えたものを。

泉 そ�だよね……

松田 今までで一番いい顔してるね。

泉 思い出しました。就活で、絶対広告代理店に入つてやるんだって思つてた、キラキラしてたあの時期のこと。今、あのときと同じ気持ちです。

松田 そ�か、

泉 よし、私たちの人生の目標のために、みなさん、頑張りましよう！

鈴木 おー！

本田 ちよつとみなさん？

泉 ほら本田も！

みんなで「えい、えい、おー！」と言う。

本田はやついていくが、なんとかのつていく。

泉 では、会議を始めます。

本田 会議？

泉 今回の企画のコンセプトは「いかにして我々のやり場のない思いを、我々を虐げてきたもの達にぶつけられるか」です。

本田 完全に仕事モードじやないですか。

泉 そこ、うるさい。

本田 すみません……。

泉 では、意見のある人は、手をあげてください。

松田・鈴木 んー……

本田 ……あ、じゃあはい。

泉 はい本田さん。

本田 実名で遺書を書くというのはどうでしょう。泉 詳しくお願ひします。

本田 死ぬ前に遺書を書くんです。その中に、我々を虐げてきたやつらの実名を一人残らず書くんです。そうすると、なんかこう、警察とかがその人のこと調べたりとか、するんじやないでしようか……？

鈴木 はい。

泉 鈴木さん。

鈴木 甘いと思います。私たちが今まで感じてきた惨めさとか怒りとか、そして死ぬという結果と、つり合いが取れていないと私は思います。

泉 では鈴木さんは何をするのがいいと思いますか？

鈴木 うーん……、

松田 はい。

泉 はい、松田さん。

松田 やはり、……我々と同じ結果になつてもらつて  
いうのが……、

沈黙。

泉 ……例えれば、どういう方法で？

鈴木 まあ、その拳銃で、虐げてきたやつらを一人ずつ  
とか？

松田 僕は、あいつか、あのヒーローの野郎を、バンッ  
と。

本田 ……。

松田 お前は、急に別れようと言つてきたヤツだろ。

本田 いや、まあそなうなんだけど……、

松田 なんだよ。

本田 でも僕、まゆゆのこと酷い目に合わせようとか、

松田 思わないかな……。

松田 なんか生理的にやだつて言われたんだろ。

本田 そうだけど、でもまだ好きだし。

鈴木 いい人過ぎるんじやない？

本田 嫌いにはなれないんですね。

泉 鈴木さんは誰を？

鈴木 いや、私はそういうのないから。

本田 泉ちゃんは？

泉 うーん、そう言わると。

松田 リュウヤだろ。

泉 リュウヤは悪くない！

松田 百パーセント悪いだろ。

泉 でも、たぶんなんか事情があつたんだろうし。  
松田 ……もうちょっとやる気出してくれないかな？

泉 やる気はある。

本田 ある。

鈴木 かなり。

松田 ジやあそいつらに復讐してやれよ。

三人 いやあー。

松田 なにそれ、どうしたのさつきのやる気は。

泉 やる気はある。

本田 ある。

鈴木 かなり。

松田 じやあそいつらにさ、

三人 いやあー。

松田 なんで。なんでなの。

泉 まあでも案としては、ひとまず、保留、ですかね？

本田 保留。

鈴木 保留だね。

松田 保留かよ……。

泉 ええとじやあ、他の案。

松田 はい。

泉 松田さん。

松田 ジやあもうさあ、人通りの多いところにさ、トラ

ツクで突っ込んでき、

泉 ……いや、それはねー、

鈴木 ……いや、いいと思うよ、

沈黙。

泉 ……ダメですよ。

鈴木 いいんじやないかな。

泉 よくないと思います。

鈴木 なんですか。

泉 人間として。

鈴木 人間らしい扱いなんてされてこなかつたのに？

沈黙。

本田 俺は、やりたくないな。だつて、俺その人たちに

恨みないし。

松田 あるだろ。

本田 ないよ。

松田 社会に対してのさ、

本田 社会？ 社会つてなに？ 俺、社会から何かされ

たなんてこと一度もないよ。社会なんてやつ見たこと  
もないし会つたこともない。人間じやないか、俺たち  
が恨みをもつてるのは、特定の人間だよ。

本田 お前、自分がこうなつたのは社会が悪いって言つ  
てなかつた？

本田 あれは……だから、誰が悪いかわからんないから、  
とりあえず社会が悪いって言つただけでさ……。

鈴木 でもメッセージにはなると思わない？ 私たちが  
そういう事件を起こすことで、私たちを虐げた人たち  
は何か思うでしょ。それに、社会だつて変わるかもし  
れない。こういう人たちが出てこないような、よりよ  
い社会をつくろうつて。

泉 メッセージのために知らない人を犠牲にするんです  
か。

松田 知つてる人よりはいいと思うな。罪悪感少ないだ  
ろ。

鈴木 そう、それに、それって私たちが殺したつてこと  
になるのかな、違うんじやない？ 社会が殺したつて  
ことでしょ。社会システムが生み出した不条理が、  
その人たちを殺したつてことでしょ。

泉 (嫌悪感を抱いている)

鈴木 それに細かいことはいいじやない。だつて、どう  
せ死ぬんでしょあんた達。やつちやいなよ、そつち  
の方が面白いよ。

松田 ほら、そっすよね。俺たちが悪いんじゃない、俺たちを生み出した社会が悪いんだよ。

泉 ……ゴミ。

泉 あんたもさあ。

鈴木 まあまあもういいじやない。

松田 ……。

鈴木 ……？

泉 他の案をお願いします。

泉 「あんたたちどうせ死ぬ」？ 「そっちの方が面白い」？ ざけんなよ、一生懸命生きてんだこつちは！

松田 今ゴミって言つたか。

低賃金のクセに！

泉 何か他の案。

鈴木 低賃金じや悪いの？

松田 おい、ゴミって言つただろ。

泉 手取り16万？ あたしは残業して、たっくさん残業して、月に56万もらつてるんだ！ あんたなんかよりよっぽど社会から認められてるんだ！

松田 ……。

鈴木 金もらつてる奴の方が偉いってか？

泉 なに銃口向けてんの？

泉 人のことただのネタだとしか思つてない奴の方が偉いか！

松田 ……。

鈴木 金もらつてる奴の方が偉いか！

泉 ……いいよ。殺せよ。

鈴木 (松田に) もういいよ、殺してよそいつ。

松田 謝れ。

泉 殺せよ。

鈴木 殺せ。

泉 殺せよ。

鈴木 やめなつて！

泉 ……なんでも暴力で自分の思い通りにしようとして、

クビになつたのだつて自分が悪いクセに、人のせいにして。あたしは違う、あたしは人のせいになんかしない。

い。全部自分の責任だから。あたしは今まで全部自分の責任でやつてきたから。

松田 偉そうに言うな、親から金騙し取つてたやつが。

泉 だから死んで当然なんだよあたしは。殺してよ、ほら、殺せ。

泉 うつせんだよゴキブリ。

本田 ゴ、どこがゴキブリなんだ！

泉 臭くて人が近寄つてこないとこだよ！

本田 な、なんてこと言うんだ！

泉 臭い、近寄らないで、きしょい、

本田 きしょいってなんだきしょいって！

泉 あたしはお前らとは違うんだよ、あたしが一番責任もつて自分の仕事して、一番社会に貢献してきたんだ

よ！

本田 殺せ、早くこいつ殺せ、

松田 挑発に乗るなよ、

本田 俺が殺す。その拳銃よこせ！

松田 やめる、

本田 なんでだ！

松田 お前本当に殺すだろ、

本田 あんただつて殺そうとしてただろ、

松田 そうだけど、やめる、お前に拳銃持たせたらどう

なるかわからんかいから！ うわ！

本田 よし、俺のもんだ。動くなよ。……俺が殺すべき  
はまゆゆじやなくてお前だ。お前みたいな、今まで俺  
を侮蔑の目で見てきたヤツらだ。

泉 撃てるんだつたら撃てばいいよ。どうせ人を殺す勇  
氣もないクセに。殺せ。こんな生きてる価値のない人  
間殺せ。

銃声。

本田 あ、あ、撃つちやつた。

鈴木 え、あたつた……？

松田 ……いや、かすつただけみたいです。

泉、急に立ちくらみがして立つていられなくなる。

うまく呼吸ができなくなり、かなり早い呼吸になり、  
落ち着かせようと思つてもなかなか落ち着かない。

本田 あ、あの、ほんと、撃つ気なんかなくて。

沈黙。

松田 こんなもんなんだ俺たちは……。

少し沈黙。

松田 本気で人を殺すことなんかできないし、本気で死  
ぬ気もないんだ。つくづく情けない……。

沈黙。

松田 ……昔つから戦隊ものが好きでき、俺は将来ヒー  
ローになるんだつて、そう思つてた。大人になるにつ  
れて、現実にはヒーローなんていしないんだつて気づき  
始めた頃、スーパーアクターつていう仕事を知つて、あ  
あ、これだ、そう思つた。俺は運動神経もいいし、で  
きるはずだつて。人前で何かやるのも好きだつたしさ。  
最初はたくさんいる戦闘員から始まつて、そのあとヒー  
ローの役もやり始めて、ある時期、上の人たちがみ

んなやめちやつてさ、俺が悪役を任されるようになつた。ま、はじめのうちは頼られてるんだなつて思つたけど、やつぱり俺がなりたかつたのはヒーローだつたからさ。それに、俺は、あんな礼儀もなにもなつていいヒーローは許せなかつたんだよ。ヒーローはあんなじやない。あれはヒーロージやないよ。……ま、今のがヒーローかつて言われたら、……10年前の俺が今の俺を見たら、きっと俺のことをヒーローとは呼ばないだろうな。

泉は落ち着いたようだ。

泉……ごめんなさい。

松田　ん？

泉　殺せつて言つたけど、ごめんなさい、……撃たれてみて、やつぱ死ぬの、怖い……。

松田　ああ、そう。

泉　私も喋つていいいですか、今みたいな感じで、

松田　ま、いんじやないの。

泉　……ああ、やつぱいいです、つまんないわ、この話。

松田　そう。

泉　10年前のあたしが今のあたし見たら、なに思うんだろう。

松田　頑張れつて思うんじやない？

松田　いや、もう頑張んなくていい、かもな。

泉　もう頑張んなくていいんすか……？

松田　自分で決める。

泉　……「俺には泉ちゃんが必要なんだよ」とか、「泉ちゃんのおかげで今回の事業は大成功だよ」とか言われて、あたしの仕事でみんなが幸せになつて、とか、あきらめろつて話ですかね……。

本田　俺には泉ちゃんが必要なんだよ。

泉　キモい。

本田　……そう、キモいんです、僕。

泉　（ちよつと笑う）

本田　（松田に）あの、ヒーローつてもうなれないんですか。

松田　（本田を見る）まだ人生長いじやないですか。

本田　松田　無理だよ。

本田　（泉に）ねえ、あなたの仕事で人を幸せにするのつて、無理なんですかね？

泉　無理。

本田　松田さん、ほら、見てください。僕、コメカミに

本田、拳銃を取り、自分のコメカミに銃口をあてる。

銃突きつけてますよ。死にますよ。いいんですか。

松田 なんでだよ。

本田 理由なんかないです。あと10秒で死にます。

松田 やめとけつて。

本田 10、9、8、

松田 どうせ死ねないよ。

本田 本気で言つてるんだ俺は！ 7、6、5、

松田 どうしたんだよ、

本田 ヒーローなんだろ。……ヒーローが、人が死のうとしてるのを、そのまま見過ごすのか。それがヒーローなのかよ。

松田 ……。

本田 4、3、2、1、

松田 くそつ、ふん！（拳銃を奪う）

本田 ……。

松田 二度と拳銃持つなお前は。

本田 ……なんで助けたんですか？

松田 助けるのに理由なんかいらねえだろ。

本田 ……ほら、なれるんですよ、今からでも。

鈴木 ……ちょっと待つて。今の、

本田 ?

鈴木 もう一回やつてみて。

松田 恥ずかしいっすよ。

いいから。拳銃奪うところから、

本田 いや、

鈴木 いいから。

本田 がもう一度拳銃を持ち、松田が奪う。

松田 くそつ、ふん！（拳銃を奪う）

本田 ……なんで助けたんですか？

松田 助けるのに理由なんかいらねえだろ。

本田 ……ほら、なれるんだよ、今からでも。

鈴木 これだ。

本田 なんですか。

鈴木 作品の題材。あ、でも……、

泉 なんですか。

鈴木 小説つていうよりは、……もつとこう、二人が舞台でさ、

松田 ショーの台本？

鈴木 え？

本田 え。

鈴木 だから私が台本書いて、二人が、それをやるの。

本田 え、でも僕、アクターとかじやないですし、

松田 今やつたようにやればいいんだよ。

本田 ええ？

鈴木 なんか小さくてもいいからさ、チラシとか作つて

泉 あ、

三人、泉を見る。

鈴木 ああうん、わかった。

松田 (本田に) いいか、まずは体作りからだ。ビシバシ

いくぞ。

本田 ああ、うん。

泉 (控えめに手を挙げて) あたし、チラシ作れる。

鈴木 ほら！

本田 でも、やるつたつてどこで？

鈴木 どこつて……、(ぱっと見まわして) ここ！

本田 こんなボロいとこでやつたつて、だつてステージ  
だつて……、つくれる。

鈴木 一級建築士！

本田 でもだつてお金もかかるし、

松田 多少はなんとかなるよ。

本田 ええ？

泉 こういう土地とか建物つて高いんですか、

本田 どうだろう……この感じじや、立地的にも相当安  
くすむと思うけど。でもここ人通りも少ないし、お客  
さんなんて来るかどうか、

泉 たぶんある程度はなんとかできる、かな……？

鈴木 書くよ。みんながやらないつて言つても、私書く  
からね。

松田 ちよつと体とか鍛えなおさないとな。

泉 (鈴木に) あの、あとで宣伝のコンセプトとか、そ  
ういうのきかせてもらつても、

本田、スマートフォンに声を吹き込んでいる。

本田 さて、なぜ俺が死にゆのか、(自分の頬を叩く) なぜ  
俺が死ぬのか、それは……なんだつたかな。きっと死  
のうと思っていたことすら、そうやつて忘れていくの  
かも知れない。このメッセージを聞く人はいないだろ  
うけど、もし偶然誰かがこのメッセージをきいて、今  
あなたが、この世界から消えようとしているなら、

松田 おし、そろそろいくぞ本田、  
本田 ああ、うん。

二人は去つていく。

泉 今日もそそここ入つてますね。

鈴木 泉ちゃんの宣伝のおかげね。

泉 でも、まだまだ連日満員にはほど遠いですね。

鈴木 本田くんとは順調？

泉 あ、実は……、

鈴木 え、その指輪……

二人の声がきこえてくる。

本田の声 ヒーローなんだろ。……ヒーローが、人が死のうとしてるのを、そのまま見過ごすのか。それがヒーローなのかよ。

松田の声 ……。

本田の声 4、3、2、1、……なんで助けたんですか？

松田の声 助けるのに理由なんかいらねえだろ。

本田の声 ……ほら、なれるんですよ、今からでも。

鈴木 ちよつ泉ちやーん、

鈴木は泉を祝福する。

舞台から、拍手の音が聞こえてくる。

幕

作・小佐部明広